

解 禁	新聞・テレビ・ラジオ
	平成29年7月21日

## 入札監視委員会の審議概要について

### 記者発表資料

沖縄総合事務局開発建設部 入札監視委員会(平成29年度第1回)が、平成29年6月20日(火)に沖縄総合事務局において開催されました。  
審議内容は別紙のとおりです。

平成29年7月21日

沖縄総合事務局

記者発表

沖縄総合事務局記者クラブ

【問い合わせ先】

沖縄総合事務局開発建設部管理課 契約管理官 金田 好章

契約管理係長 下地 公介

代表 098-866-0031 (内線 2356・2541)

直通 098-866-1981

沖縄総合事務局開発建設部 入札監視委員会(平成29年度第1回) 審議概要

開催日及び場所	平成29年6月20日(火) 沖縄総合事務局 4階 事業審査室		
委員	委員長 井上 章二 (琉球大学農学部教授) 委員 小倉 暢之 (琉球大学工学部教授) 委員 鈴木 啓子 (税理士) 委員 仲地 健 (沖縄国際大学産業情報学部教授) 委員 村上 尚子 (弁護士) (委員は50音順:敬称略)		
審議対象期間	平成29年1月1日～平成29年3月31日		
抽出案件	総件数 5 件	(備考)	
工事	一般競争 (政府調達)	1 件	○ 入札・契約の状況等、工種別発注状況等並びに指名停止・再度入札の発生状況について報告を行った。
	一般競争	2 件	
	公募型指名競争	0 件	
	工事希望型競争	0 件	
	通常指名競争	0 件	
	随意契約	0 件	
	建設コンサルタント業務等	1 件	
役務の提供等及び物品の製造等	1 件		
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	意見・質問	回 答	
	別紙のとおり	別紙のとおり	
委員会による意見の具申 又は勧告の内容	な し		

(別紙)

意見・質問	回答
<b>定例報告</b>	
<b>1 入札・契約に関する状況等</b> ○ 工事と業務の平均落札率に5%程度の差があるのはなぜか。	・ 工事は積算基準等が整備されているのに対し、業務は工事に比べると裁量の余地が大きく、業者の能力を生かしやすいのではと思う。
<b>2 対象期間における発注案件について</b>	
<b>3 指名停止措置の運用状況</b>	
<b>4 再度入札における工事別一位不動状況</b>	
<b>5 一者入札推移</b> ○ 一般競争の業務で一者入札が多いのはなぜか。	・ 高度な知見や技術提案を求めるプロポーザル等に比べると一般競争は定型的な業務が多く、企業の受注意欲が比較的低いのではないかと考えている。
<b>抽出事案</b>	
<b>1 工事</b> <b>◆ 平成28年度港川高架橋上部工(下りP5～P9)外工事</b> ○ 入札前に各参加者の技術評価点は分かるようになっているのか。 ○ 各者の入札価格のほとんどが調査基準価格に近い金額だったことをどう考えているか。 <b>◆ 平成28年度北部国道管内防災対策及び区画線設置等工事</b> ○ 複数の業者の入札金額が同額となっているが内訳の確認は行っているのか。 <b>◆ 平成28年度長田橋・比謝橋塗装補修工事</b> ○ 加算点の評価項目の地元資材活用比率については、入札前に確認は行っているのか。	・ 各社の点数は落札後に公表されるため、入札前の時点では自社の技術提案が評価されたかが分かるのみである。 ・ 本件のような発注の多い工種については、ノウハウが蓄積されていることが予測されるため、入札参加者ができるだけ低い見積価格で入札するのではないかと考えている。 ・ 入札時に工事費内訳書を提出することになっているため、内容については確認を行っており、内訳が同じということはない。 ・ 契約後に施工過程の中で調査を行い、申告した比率より低ければペナルティの対象となる。
<b>2 建設コンサルタント業務等</b> <b>◆ 那覇港臨港道路(橋梁)耐震性能評価業務</b> ○ 今回は一者応札により契約に至ったが、仮に参加者の能力が低かった場合はどうするのか。	・ 技術者に求める要件を満たしていない、提案内容のレベルが低い、或いは発注者の求めているものではなかったりすれば契約には至らず、再度発注し直すことになる。
<b>3 役務の提供等及び物品の製造等</b> <b>◆ 平成28年度首里城正殿漆塗替え作業</b> ○ 工事と比べて役務の予定価格と調査基準価格の差が大きいのはなぜか。	・ 役務の調査基準価格の算定方法に従って算定したもの。